

長野県高等学校改革プラン推進委員会
(第2推進委員会)

報 告 書

平成18年2月8日

長野県高等学校改革プラン推進委員会
(第2推進委員会)

はじめに

第2推進委員会は、平成17年5月29日に発足以来、平成18年1月29日までに18回にわたって精力的に審議を進めてまいりました。

推進委員会が長野県教育委員会から依頼された検討事項は、高等学校改革プラン検討委員会からの最終報告に基づいた「魅力ある高校づくり」、「県立高等学校の再編整備」、「総合学科高校や多部制・単位制高校の配置」等についてであります。こうした課題について地域の実情を考慮しながら慎重な審議を重ねてまいりました。

この間、県内外の総合学科高校や多部制・単位制高校を視察するとともに、地域の皆様からいただいたご意見やご提言あるいは要望書等を参考にしながら、少子化の時代に相応しい高校の配置や再編整備等について、さまざまな視点から検討を行い、第2通学区全体として教育力を高め、生徒の皆さんにとってよりよい教育環境を整えるにはどうしたらよいか知恵を絞ってまいりました。

こうした検討の結果、第2推進委員会として、依頼された検討事項について一定の方向付けができましたので、その結果を「報告書」としてまとめ、県教育委員会に提出いたします。

県教育委員会においては、この報告書を尊重して実施計画を策定し、未来の高校生たちにとって、全ての県立高校が魅力あるものとなるよう高校改革を推進されることを願っています。

長野県高等学校改革プラン推進委員会（第2推進委員会）

委員長 飯島俊勝

目 次

はじめに

1	県教育委員会から検討を依頼された事項	1
(1)	魅力ある高校づくり	1
(2)	総合学科高校、多部制・単位制高校	2
(3)	県立高校の再編整備	3
2	第5区	4
(1)	丸子実業高等学校を総合学科高校に転換	4
(2)	再編対象校以外の高校	5
3	第6区	5
(1)	望月高等学校と蓼科高等学校の統合	5
(2)	野沢南高等学校を多部制・単位制高校に転換	6
(3)	再編対象校以外の高校	7
4	定時制の再編	8
(1)	上田千曲高等学校定時制、上田高等学校定時制	8
(2)	野沢南高等学校の定時制	8
(3)	小諸商業高等学校の定時制	8
5	その他（要望事項等）	8
	おわりに	9

第2推進委員会委員名簿	10
-------------	----

第2推進委員会検討の経過	11
--------------	----

1 県教育委員会から検討を依頼された事項

(1) 魅力ある高校づくり

第2推進委員会では検討依頼事項を審議していくにあたり、これからの少子化・高齢化・情報化社会に対応した、未来の高校生にとって魅力ある高校とはどのような高校であるべきかについて、十分な議論をしていくことが再編整備等の論議を進めるために必要であると考え、提示された資料などを参考にしながらこの議論を行ってきた。委員会で出された主な意見を紹介する。

【委員会での審議の方向を示すもの】

- ・中学生や保護者の価値観は多様化しており、それに柔軟に対応できる教育の在り方を考えていく必要がある。
- ・改革することにより生徒にとって学びの選択肢が広がるように、また、進路選択や職業選択がより適切に行えるようなものにしていく。
- ・変化することを怖れないで、変化することによりプラスになっていく面があることを考えていくことがこの委員会の役割である。
- ・委員は地域代表ではない。皆で参画して通学区の高校改革をしようということである。
- ・第2通学区のすべての学校を対象として議論をし、パワーのある学校をつくっていくことを考えたい。

【魅力ある高校像】

- ・中学校から見て魅力のある高校とは、次のような学校である。
 - ()生徒が将来へ向かい進路実現ができる学校
 - ()その学校へ行って良かったと満足できる学校
- ・魅力ある学校とは、生徒の持っている能力を最大限引き出してきて、生徒が行きたくなるような学校、また保護者が安心して通わせることができる学校である。

【魅力ある学校づくりにあたって】

- ・魅力ある学校づくりは魅力ある教師づくりをすることである。
- ・教育では学ぶことへのモチベーションをしっかりとすることが大事である。そのため総合学科高校、多部制・単位制高校である。
- ・生徒たちは行ける学校を選ぶのではなく、行きたい学校を選ぶ、選べる時代になってきた。
- ・各校とも国際化の時代に通用する基礎学力の向上に更に取り組んでいくことが必要である。

(2) 総合学科高校、多部制・単位制高校

魅力ある高校づくりの議論を行ったあと、検討依頼事項の中の「総合学科高校」「多部制・単位制高校」について議論を行った。まず、それぞれのシステムを十分理解することに努め、推進委員会に塩尻志学館高等学校教諭を招き、総合学科の説明を受けたり、県内外の総合学科、多部制・単位制高校等の視察を実施したりすることで理解を深めた。第2通学区へ導入することの可否も含めて時間をかけて審議し、「総合学科高校」「多部制・単位制高校」とも時代のニーズであり、生徒に多様な選択肢を保障するために必要なシステムであることから第2通学区に導入していくことを委員会として確認した。

【総合学科高校の設置について】

- ・普通科と専門学科の両方から幅広く選択して学べる総合学科は時代のニーズである。
- ・中学生の進路希望においても総合学科への期待は高い。
- ・ガイダンス機能を充実させることにより、職業観を高めることができる。生徒は自らの進路を主体的に考え、幅広い選択肢の中から自分に合うものを選択する能力を高めることができる。その結果、確かな学力を身につけることができ、希望進路の実現が達成できる良いシステムである。
- ・自分の職業適性をじっくり判断し、多くの選択肢から、自分に合った進路を見つけることができる。
- ・普通科や専門学科という壁を取り除き各科の施設・設備を共有して有効に利用できるメリットがある。
- ・働く意欲を持たない若者たちが多くなっているが、そういう子どもが出ないためにも総合学科の設置が必要である。

【総合学科設置についての課題】

- ・専門学科において行われる専門性の高い教育を総合学科でも維持していくことは難しいのではないかと。県全体として専門教育についての今後のあり方を明確にしておく必要がある。

【多部制・単位制高校の設置について】

- ・柔軟な教育活動が期待でき、従来なかった新しいタイプの学校とすることができる。
- ・単位制のシステムのメリットを活かし、幅広い選択が可能な教育が期待できる。
- ・芸術活動やスポーツ分野など自分のやりたいテーマを持っている生徒、専門的な勉強をより早めに始めたい生徒などに向いているシステムである。

- ・だれでも、いつでも学べる学校というのは時代の要請でもある。
- ・従来の学校の生活のリズムになかなか乗れない生徒にとって、自分の生活スタイルに合わせて学習できるシステムである。
- ・現在定時制に通っている生徒たちが、夜間だけでなく、昼間も勉強したい時、それを可能にするシステムである。
- ・不登校傾向の生徒たちにも少人数で安心していられる居場所というものも保障していかなければいけない。それが多部制・単位制高校で実現できる。

【多部制・単位制高校の可能性について】

- ・セーフティネット的な面と進学対応型コースなど新たな魅力をつけることとを両立させた学校づくりができる。
- ・利便性のいい学校を多部制・単位制高校に転換し、特色を持ったクラスを用意して目的に応じた活動をすることができる集団づくりが可能である。
- ・自分で科目選択をしていくことから勉強するモチベーションを高める可能性がある。
- ・国際化の時代であり、外国人生徒を受け入れるスキームを考えることを提案したい。
- ・高齢化社会を迎え、生涯学習へのニーズにも積極的に対応していくことを提案したい。

【設置にあたって】

- ・多部制・単位制高校に必要なのは交通の利便性であり、利便性のいい鉄道沿線に設置することが必要である。
- ・長野県らしさを考慮した多部制・単位制高校をプラス志向でつくっていく。
- ・相談室、学習室なども充実させる必要があることから一定程度の規模を持つ学校を転換することが必要である。
- ・2部制ではなく3部制のシステムにしていく必要がある。
- ・総合学制的なもの、例えば福祉コース、ビジネスコースなど取り入れることも考えられる。
- ・セキュリティ対策や各種情報管理システム、ID管理等の導入なども検討する。

(3) 県立高校の再編整備

第2通学区の再編整備を考えるにあたり、生徒数がピーク時から半減することを重く受け止め、われわれが高等学校改革プラン検討委員会から提起されたものを具現化しなければならないという思いで議論を進めた。検討期間も区切ってやらなければならないという認識に立ち、通学区全体を見渡して学校数の問題も含めて慎重に審議し

た。生徒数の減少から第2通学区は再編が必要であり、全日制の学校数を17校から15校に再編していくという検討依頼事項に沿って進めていくこととした。

【再編整備にあたって】

- ・子どもが減っている現実があり、再編はつらい面はあるが、充実した高校教育を推進するためやむを得ないものとする。
- ・今回改革をしないで放置すれば将来地域や生徒たちの期待に応えられない事態が生じることになる。
- ・現状を再認識した上で、東信地区にどのような高校をつくっていくのか意見を出すのが我々の役割である。
- ・第6区では平成17年度、専門学科などで100名の定員割れを生じている。このことも解決していかなければならない。
- ・上小地域に比べ佐久地域の県立高校数が多いことも考慮していく必要がある。
- ・高校を統合する基本的な考え方は、両校がこれまで培ってきた教育内容の良いところを併せ持った新しい学校をつくることである。

【再編の課題等】

- ・第6区には歴史的経過や地理的条件からみても職業高校も含めて小規模な高校が多かったという事実もあり、学校の数だけでは考えられない面もある。
- ・都市部の大規模校の学級数も見直し、均等に足腰の強い学校をつくっていくことが必要である。

2 第5区

(1) 丸子実業高等学校を総合学科高校に転換

丸子実業高校は現在普通科と4つの専門学科を持ち、教育内容も多彩であり、総合学科に転換した場合においても、その教育内容や施設・設備を活かして多様な教育を展開することが期待できる。

【転換にあたっての配慮事項】

- ・学校が描く総合学科高校転換のビジョンに配慮していく。
- ・第6区からの生徒の通学の利便性の点について配慮していく必要がある。
- ・総合学科の教育課程に対応できる専門性の高い人的配置や、施設・設備の整備にも配慮する必要がある。特に学年生徒が全員集まれるようなスペースについても検討していく。

- ・会計分野で国際性を取り入れるなど従来の専門学科にさらに付加価値をつけた教育内容にしていく。
- ・ガイダンス機能の充実など先生と生徒の結びつきを強め、きめ細かい指導ができるようにしていく。
- ・状況の推移を見ながら佐久地域でも必要性が高まった場合は、総合学科開設の可能性を考える。

【転換後のイメージ】(参考意見)

- ・地域と関連した総合学科の系列の設置
例) 地域と連携した医療・福祉分野、伝統ある繊維素材関連分野、食品加工分野、建設関連分野等
- ・地元産業界と連携した教育活動
- ・地元大学・短大との多角的な連携の推進
- ・キャリアアップにつながるさまざまな資格・検定等への積極的な挑戦

(2) 再編対象校以外の高校

第5区の個々の高校の魅力づくり等について十分時間をとって議論をすることはできなかったが、東部高校については、今後の更なる発展を期待する意味で、次のような意見があった。

これまでも環境緑化、福祉などコース制を導入し魅力づくりに努めているが、今後も体験的な学習を取り入れる工夫や国際関係の学習ができる工夫などをして、生徒にとって魅力ある高校となるよう地域からの支援を受けながら取り組んでいく必要がある。

3 第6区

(1) 望月高等学校と蓼科高等学校の統合

地域からの提案として望月高校を多部制・単位制高校に転換する対案が提出された。推進委員会としては、この対案の内容に評価できる点もあることから、重く受け止め時間をかけて慎重に審議を行ったが、交通の利便性等の問題から、多部制・単位制高校に転換することは困難であるとの結論に達した。

生徒数の減少から、この地域では将来的に望月高校と蓼科高校の2校が存続していくことは難しいと考える。望月高校と蓼科高校とも普通科でコース制を敷いて同じ方

向をめざしており、統合して足腰の強いパワーアップした新たな高校をつくることが生徒にとって魅力ある高校になると考えられる。また、統合して新たな高校をつくっていく場合、生徒の通学範囲等に配慮し、新たな学校は蓼科高校の校舎・校地を活用する。

【統合にあたっての配慮事項】

- ・両校の統合と位置づけていく。
- ・新しい学校のビジョンづくりにあたり地域の意見を聞きつつ、県教育委員会がリーダーシップをとって、統合を進めていく必要がある。
- ・望月高校、蓼科高校両校で実践してきている良いところをさらに発展させて新しい学校で活かしていく。

【統合後のイメージ】(参考意見)

- ・コース制の充実
例) 進学コース、ビジネスコース、福祉コース、スポーツコースなど地域の要望を取り入れたコースの設置(希望進路が実現できるような学校づくり)
- ・地元中学校との連携(学習活動・クラブ活動)
- ・魅力あるさまざまなクラブ活動の充実
- ・地域教育プラットフォームからの支援
- ・地域と連携した学校づくり
- ・統合過程における学習面、行事面やクラブ活動の連携(合同学習、合同チーム等)

(2) 野沢南高等学校を多部制・単位制高校に転換

生徒数の減少から佐久市内で高校を再編していく必要があること、現在野沢南高校に在学している生徒の通学範囲の状況をみると、小諸・佐久地区の広域から通学が可能と考えられること、また食堂などの施設、多部制・単位制高校に転換した場合に必要な普通教室が確保できることなどを総合的に考えた。最終的には多数決により野沢南高校を多部制・単位制高校に転換していくことを決定した。

【転換にあたっての配慮事項等】

- ・野沢南高校を多部制・単位制高校に転換した場合の第6区の普通科の定員については周辺校の普通科の充実を図る中で必要な定員を確保していく必要がある。
- ・どういう形の多部制・単位制をつくっていくか、地元の意見を十分聞きながら進める。

- ・進学対応型コースを設定し、希望進路が実現できる学校づくりを行うことも考えられる。
- ・一般社会人も受け入れての生涯学習を行うことや、外国籍生徒の受け入れなどを考え、地域に相応しい高校づくりを期待する。
- ・セーフティネットの役割も付加し、新しい学科も視野に入れて考えていく必要がある。
- ・生徒がくつろげるスペースなどを整備する必要がある。
- ・生徒の在籍や出席管理等を掌握・管理できるシステムを導入する必要がある。
- ・地域との交流ができるような学校づくりをすることを期待する。
- ・教科によっては少人数体制で授業ができるように環境整備、人的配置等に配慮する。
- ・移行期間には、全日制普通科に学ぶ生徒の教育活動全般が保障されるよう配慮する。
- ・学習意欲を持つ多様な入学希望生徒に対応するため、多彩な講座の開設を目指し進路希望実現のニーズに応える。
- ・情報ネットワーク等の設備機器も整備し、e-learning による個別指導等学習支援体制も充実させることを期待する。
- ・状況の推移を見ながら上小地域でも必要性が高まった場合は、多部制・単位制高校設置の可能性を考える。

【転換後のイメージ】(参考意見)

- ・午前部、午後部、夜間部の3部制
- ・進学対応型コースの設定
- ・生徒相談体制の整備
- ・クラブ活動の充実(地域人材を指導面で積極的に活用)
- ・地域の生涯学習の場としての活用(地域住民を外部講師として活用)
- ・外国籍生徒の受け入れ
- ・第1通学区多部制・単位制高校通信制課程のスクーリング会場としての活用
- ・さまざまな生活歴を持つ生徒の居場所としての役割
- ・コース別少人数学習の推進

(3) 再編対象校以外の高校

再編対象校以外の高校も様々な魅力づくりや再編を考えていく必要があると考えるが、委員会では次のような意見が出された。

- ・臼田高校は佐久市南部や南佐久地域の普通科を志望する生徒に配慮して普通科を充実し、希望進路の実現できる学校づくりを進める必要がある。また、専門学科につ

いては、周辺校への統合や再編なども視野に入れて将来を展望していくことが考えられる。

- ・北佐久農業高校は、農業教育の中心としてさらに充実していく必要がある。
- ・軽井沢高校の英語科も定員が充足していない状況も考慮して、魅力づくりに取り組んでいく必要がある。

4 定時制の再編

(1) 上田千曲高等学校定時制、上田高等学校定時制

(2) 野沢南高等学校の定時制

(3) 小諸商業高等学校の定時制

定時制については、基本的には各通学区に設置する多部制・単位制高校に統合していくことが適切であると考ええる。

- ・上田千曲高校と上田高校の定時制については、第 1 通学区に設置される多部制・単位制高校に統合していくこととするが、統合のプロセスにおいては生徒の動向を考慮して移行期間を設定する必要があると考える。
- ・野沢南高校の定時制は同校に設置される多部制・単位制高校に統合していく。
- ・小諸商業高校の定時制は新たに設置される多部制・単位制高校との距離に配慮し、引き続き配置していく。

【定時制再編にあたって】

- ・夜間定時制の持つ役割の多くを多部制・単位制高校において担うことができると考える。
- ・定時制や多部制・単位制高校を希望する生徒が通学に著しい困難が生じないように配慮していく必要がある。
- ・大きな集団での学校生活になじめない生徒に対しては、少人数学習ができるよう配慮していく必要がある。

5 その他（要望事項等）

- ・専門学科のレベルの高いセンター的な高校を各地区につくり、機能を充実させていく必要がある。
- ・私立高校との公私比率も一律ではなく、変化していくことも視野に入れて考えていく必要がある。
- ・学校経営に評価システムを導入し、地域の代表など第三者も入れて、一定期間ごと

にチェックしていくことなども考えるべきである。

- ・学校運営に関して各校の魅力づくりや特色にあわせて、人事面では教員公募ができる仕組みや、学校長が教員をリクルートできる仕組みづくりを進めることなどが必要である。また、学校長の裁量で執行できる予算の拡大も要望したい。
- ・生徒・保護者のニーズでもある進学対応型の単位制高校の設置も要望する。
- ・改革の次のステップでは、専門高校の将来展望を示していく必要がある。
- ・学校間のネットワーク化や連携を進め、地域で少子社会に対応していく必要がある。
- ・中高一貫教育についても地域のなかで特色ある教育のひとつとして研究していく必要がある。
- ・望月高校を多部制・単位制高校に転換する対案の中にある「地域教育プラットフォーム」について、今後各地域でも研究することを期待したい。
- ・次の再編期が来るのは必至であり、それまでの間、各校が魅力づくりに積極的に取り組み地域から評価される学校経営を目指すことを期待したい。
- ・再編の実施時期については状況に配慮しながら慎重に考えていくことを要望する。

おわりに

改革することにより、今より良い環境をつくっていかねば、改革の意味がないという思いから、どうしたらこれからの生徒たちに魅力ある高校を用意することができるかということを根底に据えながら議論を進めてまいりました。

推進委員会に対して、多くのご意見やご批判も頂戴したことは重く受け止めておりますが、未来の生徒たちのために魅力ある高校づくりや再編整備を考えるという推進委員会に課せられた使命を全うするため、一部を非公開の審議とするなど苦しい審議もありましたが、委員一人ひとりの英知を集め、真剣な議論を進めてきたつもりです。

21世紀に課された課題は、少子高齢化社会、環境問題等たくさんあります。それら乗り越えていく青少年に夢や希望を与える高校教育システムが県教育委員会の判断で慎重かつ迅速に進められることを願ってやみません。

長野県高等学校改革プラン第2推進委員会委員名簿

【順不同 敬称略】

		氏 名	職 業 ・ 役 職 等	
自治体及び 地域関係者		芹澤 勤	小諸市長	
		遠山 順孝	立科町長	
		小林 将喜	東御市教育委員長	
		佐藤元太郎	軽井沢町教育委員長	副委員長
有 識 者		太田 節	東京特殊電線（株）常勤監査役	
		和泉 碩也	双信電機（株）常務取締役長野製造本部長	
		飯島 俊勝	長野県保育園連盟会長	委員長
		荻原 拓次	元野沢北高等学校PTA会長	
学校関係者	保護者	宮阪 義彦	依田窪南部中学校保護者	
		滝澤 清登	上田高等学校保護者	
	校 長	中沢 裕	野沢中学校長	
		西村 廣一	小諸高等学校長	
	教 員	市川 久由	真田中学校教諭	
		原 貞次郎	小諸商業高等学校教諭	

第2 推進委員会検討の経過

回	期 日	会 場	主 な 審 議 事 項
第1回	平成17年5月29日(日)	長野県庁西庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長の選出 ・資料(最終報告等)の説明及び質疑応答 ・高校改革に関する意見交換
第2回	平成17年6月19日(日)	上田合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の検討の進め方について ・魅力ある高校づくりについて
第3回	平成17年7月3日(日)	上田合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高校再編整備候補案について ・魅力ある高校づくりと「総合学科高校」「多部制・単位制高校」について
第4回	平成17年7月24日(日)	佐久市野沢会館	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある高校づくりと「総合学科高校」「多部制・単位制高校」について ・学校運営について
第5回	平成17年8月7日(日)	上田消費生活センター	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の検討の進め方について ・「総合学科高校」、「多部制・単位制高校」について
第6回	平成17年8月22日(月)	佐久勤労者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科高校」について ・中高一貫教育校、学校間連携について ・「多部制・単位制高校」について
第7回	平成17年9月7日(水)	上田市情報ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・「県立高校再編整備候補案」の解説の説明及び質疑応答
第8回	平成17年9月25日(日)	佐久勤労者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科高校」について(塩尻志学館高校教諭による説明・質疑応答) ・「多部制・単位制高校」について
第9回	平成17年10月9日(日)	上田合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科高校」について ・「多部制・単位制高校」について
第10回	平成17年10月28日(金)	小諸市民会館	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合学科高校」の配置について ・「多部制・単位制高校」について ・地域からの意見聴取について
第11回	平成17年11月13日(日)	上田市情報ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの提案について ・「多部制・単位制高校」の配置について
第12回	平成17年11月27日(日)	佐久市研修センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの提案説明(2団体) ・「多部制・単位制高校」の配置について
第13回	平成17年12月11日(日)	東御市文化会館	<ul style="list-style-type: none"> ・多部制・単位制高校の配置について ・第6区の再編整備について
第14回	平成17年12月23日(金)	上田市情報ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・多部制・単位制高校の配置について ・第6区の再編整備について
第15回	平成17年12月28日(水)	上田中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> (一部非公開) ・第6区の再編整備について ・「多部制・単位制高校」の配置について
第16回	平成18年1月9日(月)	上田市情報ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・「多部制・単位制高校」の配置について
第17回	平成18年1月15日(日)	上田市情報ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制の再編について ・報告書案の審議
第18回	平成18年1月29日(日)	小諸市公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制の再編について ・報告書案の審議